第2特集

海洋深層水のパワーに迫る

文●足立倫行
撮影●田里弐禄衣

水深200メートルより深海に存在する海水が「海洋深層水」。地球上の海水のおよそ95パーセントは、この海洋深層水だという。沖縄周辺海域を流れる深層水は、なんと900～1000年も前の水だとか。久米島では、水深612メートルから取水されている深層水の特性を利用して、新たな産業や雇用が生まれている。海洋深層水で地域活性化をもくろむ久米島へ飛んだ。

Deep sea water in Kumejima

ガラス製屋根から陽光が射し込む明るい養殖場。場長の仲道(なかみち)司さんが、大型水槽の傍らでオレンジ色のネットを引き上げた。

「ここにタネを植え付けます。これが海ぶどう(クビレヅタ)の母藻になります。植え付けて4、5日で芽が出ます」

2枚のネットにサンドイッチ状にはさまれた多数の海ぶどうの断片。仲道さんは、少し離れた水槽へと移動した。

「で、こちらが約1カ月後です」

水槽からネットを引き上げたのだが、もうネットは見えない。

沖縄県海洋深層水研究所内を走る深層水のパイプ(右)。左は研究所の2.3km沖、水深612mに沈められている取水パイプの見本。内径28cmのものが2本使われている。

612mの水深にちなみ6月12日を「久米島海洋深層水の日」と制定、「久米島海洋深層水ブランド」マークもつくられた。